

- 農道の整備により、営農センターへのアクセスのみならず、通勤・通学等の生活関連交通や観光交通の利便性が大きく向上
- 岐阜クリーン農業登録面積、認定農業者数が大幅に増加
- 地域の連携が強化し、特産農作物であるハウレンソウ、トマトの生産体制が強化

取組前

営農センターへのルートの分断

- 農地と営農センターの間に高原川が流れており、営農の交通ルートが大きく迂回していたため、交通の利便性が悪かった。



円滑な交通の阻害

- 農業関係車両が狭隘な市街地内を通行する必要があったため、交通環境が阻害されていた。
- 主要道路である国道41号では、積雪により立ち往生することもあった。



国道41号の積雪の様子

取組内容

農道の整備

【県営基幹農道整備事業 神岡地区】
(H3~H28)

- 事業費 156億円
- 農道延長 5,931m
- 道路 4,464m トンネル 1,136m
- 橋梁 331m



杉越トンネル

地元組織の確立

- 地元住民の熱い要望により、「神岡縦貫農免道路期成同盟会」が設置され、用地関係を含め全面協力体制で事業を支援するとともに、愛着のある農道となるよう



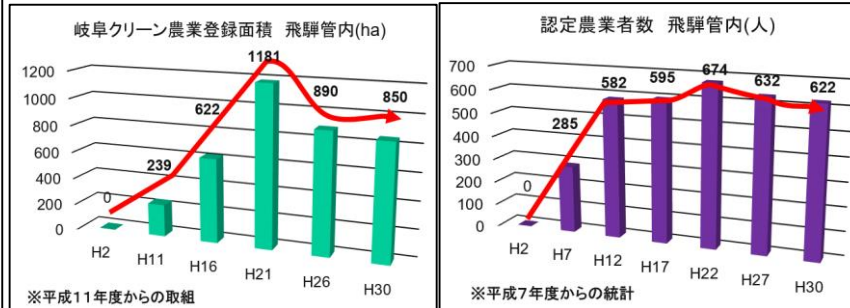
地元組織による看板設置

住民等の意見を聞きながら建設推進に対する活動を行った。

取組後

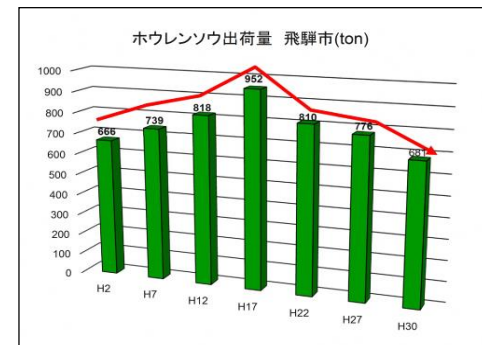
農道整備に伴う農業競争力の強化

- 農道の整備により起終点間の距離は10.7kmから7.3kmへ、所要時間も21分から9分に短縮され、営農センター等へのアクセスが大きく向上
- 岐阜クリーン農業登録面積、認定農業者数が大幅に増加



地域連携による農作物の生産強化

- 県内有数の生産額を誇るハウレンソウ、トマトを始め飛騨地域の野菜生産額は農道の開通により順調な伸びをみだが今後、地域連携により一層の生産力の強化が望まれる。





神岡町のトマト栽培

農道と杉越トンネル

麻生野大橋

きっかけ

農地から集出荷場へのルートが河川で分断されており、市街地を迂回する迂回路を通らざるを得なかった

Step1 (S60~)

関係者間の調整、計画策定

- 飛騨市農業生産総合振興対策本部、農協、農林商工事務所、農業委員会、農業推進生産組合等の指導連携体制を組織化
- S63 地元住民により神岡縦貫農免道路期成同盟会を設立

Step2 (S63~)

事業計画の取りまとめ

- 道路ルートの選定は、既存の市道を極力生かすとともに、建物や農地への影響を最小限にして、事業費を抑える計画を立案

Step3 (H3~)

農道整備事業の着手

- 平成3年より工事に着手
- 工事期間を4期に分け、1期分2,612mの整備を開始

Step4 (H10~)

農道整備工事の推進

- H10 1期工事完了
- H16 3期工事完了にて杉越トンネルの開通

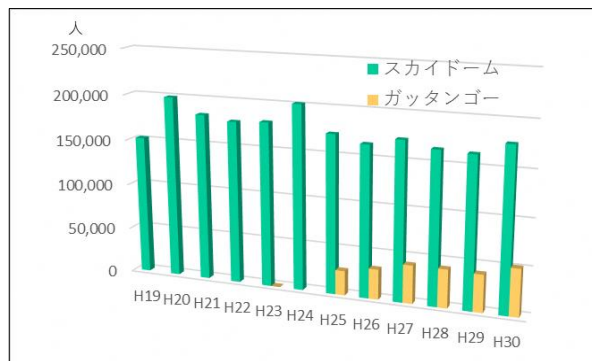
Step5 (H16~H19)

社会情勢の変化

- H16 平成の大合併により飛騨市誕生
- H18 農産物直売所併設の道の駅「宙(すかい)ドーム神岡」開設
- H19 レールマウンテンバイクガッタンゴー営業開始



道の駅 宙(スカイドーム)・神岡
カミオカラボの開設、地域の特産物の販売



スカイドーム、ガッタンゴーの観光入込客の増加



旧神岡鉄道の活用
レールマウンテンバイク (ガッタンゴー)

将来に向けて

- ハウレンソウ、トマトの県内有数の産地として、今後も農業集積や担い手の増加に努め、農業競争力の強化を図る。
- 飛騨牛ブランド拡大のため、高山市と連携して一体的な飼育、輸送、加工、販売システムを構築する。
- 観光需要の増加に対応した新たな農業振興策の取り組みを強化する。

今後の展望

Step7 (H28~)

地域資源を活用した観光・地域振興

- 農産物直売所の売上は好調で、農道の全線供用により更なる売上が期待
- ひだ宇宙科学館「カミオカラボ」が道の駅に開設
- 旧神岡鉄道を活用したレールマウンテンバイクは観光入込客数が増加

Step6 (H10~)

農道整備工事の推進

- H20 2期工事完了
- H27 麻生野大橋の開通
- H28 事業完了
- 基幹農道が全線供用され、営農センターへのアクセスが大きく向上